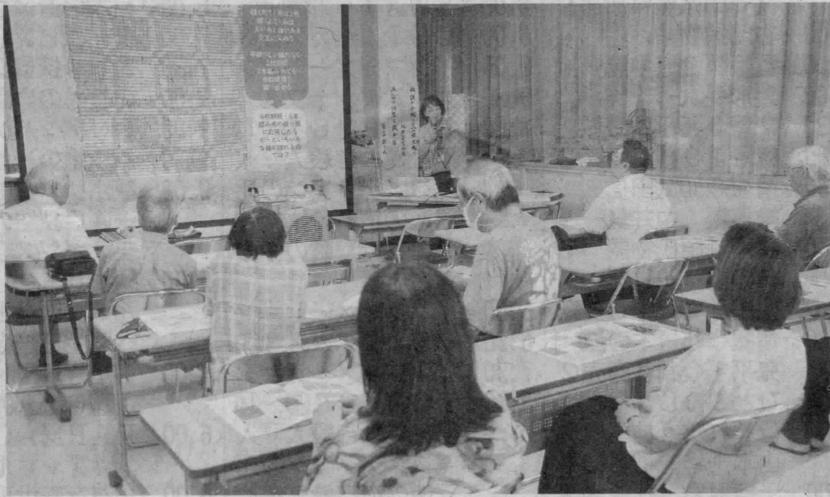


# 諏訪の歴史文化に理解

## 県文化財保護協会支部が研究発表会

県文化財保護協会諏訪支部（伊藤文夫支部長）は30日、京理科大学非常勤講師の北原ますみさんと中部測地研究所代表の藤森雄一さんが研究発表会を開いた。公立諏訪東



2人が研究内容を解説した県文化財保護協会諏訪支部の研究発表会

果を発表。会員ら17人が聴講し、地域の歴史や文化に理解を深めた。

北原さんは「信州諏訪の縄文と八つ縄文織り」と題して発表した。諏訪地域の繊維業の歴史を語り、江戸時代の諏訪を代表する手織り「小倉織」について説明。当時の文献を引用して「江戸では諏訪平のは

かまの評判が良く、流行していた「水戸浪士の間でも諏訪小倉の帯が知られていた」などと紹介した。

自身が手織り教室の講師を務める1900（明治33）年創業の糸専門店「いちき糸店」（諏訪市）の元社長・故高木義一朗さんの研究内容も解説。パソコンで作成した手織りの設計図「組織図」を示しながら、構造数列や結合状態、基本目数の考え方を伝えた。小倉織の技法を源流に高木さんが考案した「八つ縄文織り」の技法も紹介し、「諏訪の手織り文化や技術の継承を願いたい」と話した。

このほか、藤森さんは「諏訪の地質と鉄平石」をテーマに発表した。（松本佳林）

evni < < mcs.lismp@ed.irzoy